

天災高校～GENIUS9よ甲子園の天を揺るがせ～

金脇真人

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この作品は二次創作となります。

You Tubeで実況。パワフルプロ野球と言うゲームの中の栄冠ナインというモードを実況されていた実況者の方ルフさん

(<https://www.youtube.com/channel/UC7F9-vf2Fc93W3HuhVLZi4A>)
のシリーズの一つ。

天災高校の物語となります。

個性豊かな天災ナインの三年間をご覧ください。

目次

第一話 入学

1

天才たちの分け目

5

第一話 入学

俺は芹田。

とある高校へと入学する事になった、新高校一年生だ。

この高校では、全国から集まった野球の天才達を集めて、甲子園優勝を目指すらしい。監督の名前はルフとか言う監督だ。

俺の中学までスカウトに来てくれた、有り難い監督だ。

さてと…、野球部はと…。

お。ここか。女マネ三人!?!しかも、全員美人だ!

部室の中に入ってた…。

さてと、俺も部室内に入るか…。

ノックして、失礼しまーす!

『…。』

ゴゴゴゴゴ…。

まさにその音が似合うぐらいの威圧感を放っていた。

この部屋だよな…。と言うか、この人たち名前一回は見たことあるな…。

ええと…。

なんかこの大砲っぽい金髪の人が北浦くん。

一個椅子開けて、その右隣に座っているのが、大柳さん。この人も大砲っぽいな…。滅茶苦茶美人。この子アイドル的存在になるだろうな…。

その更に右隣にいるのが真木さん。うわ…。美人…。モテるだろうな…。この子。向きが変わって、北浦くんの左隣は塩谷くん。メガネを掛けていてかなりのイケメンだ。

更に左隣に木下くん。ベビーフェイスの好青年と言った印象だ。

木下くんの更に左隣に北山くん。熱い心を持つていそうな顔だ。

北山くんの更に左隣に鎌田くん。正直言つてかなり怖い。

鎌田くんの左隣には久保寺くん。なにやら怖い繋がりや並べたような並び方だ。

久保寺くんの左隣には綱島くん。大声出して全力プレーをしてくれそうな顔だ。

さてと、俺の席は…、綱島くんの左隣かな。

そして、マネージャー志望の子が一個席を挟んで左隣の席に座った。

並び順

北浦

塩谷 あき

木下 大柳

北山 真木

鎌田 マネ

久保寺 あき

綱島 芹田

の順番。そして、何よりこの野球部に揃ったのは、全国に出場していて、尚且天才である可能性が極めて高いという、最強の野球部を目指すという高校なのだ。

この天災高校は嘗ては、現在の内閣総理大臣を輩出したことでも知られる、まさに名門校。

桁違いに学力が高く、そこに入学したものは、素晴らしい才能を持っていると見込まれて、三年間の期間、その才能を伸ばすのだ。

だが、野球部は、今年から復活。

天災高校では、過去に野球部で事件が有りそれ以降、野球部は廃部となっていた。だが、今年、プロ野球選手として活躍したこの高校出身のルフと言う監督が就任。

これにより、野球部の復活が認められた。

そうなれば、本気になるのは学校の経営陣だ。

是非とも天災高校の名に置いて、全国優勝のみを目指せという指示がルフ監督には

下っていた。

さて、話を戻そう。

これにて、天災高校の戦いが始まる。長いようで短い、最強の野球部の物語が…。

天才たちの分け目

翌日。

「綱くーん。まだー?」

「ごめーん。すっかり寝坊したー。」

「いや、まだ朝4時なんですけど…。」

「俺は朝4時に起きてバットを素振ってから学校に行ってた。」

「やっぱ打撃好きは違うねえ…。」

「全国で負けたくはなかったからな…。」

「結局、全国優勝は…。」

「真木だったな…。」

「真木ちゃんが強すぎたよね…。」

「ああ…。全国大会ってあんな凄いところだったんだって気付いたんだ…。」

「結局、二回戦で当たっちゃったんだっけ?」

「ああ…。」

「それじゃ、素振り行こっか。」

「クラス分けどうなるのかなー…?」

この学校は、クラス分けは入学して3日目によく発表される。一日目は部活に行き、その寮の紹介。二日目は…。今から始まる。

…数時間後…

「これより、天災高校、天才試験を始める。」

そう。この学校は入学した時点で天才と思われる人物たちを集めるのだが、稀に天才ではない一般生徒が入学してくるため、それを仕分けるというルール違反も甚だしいルールが設けられている。

…数分後…

「終わり!」

これで、翌朝のクラス分けで結果が発表される。

…翌朝…

なんか寝れなかった。

寝ようとしたら隣の部屋の北浦君がくしやみをしてびっくりしちやうわ、真木ちゃんたちが男子の部屋をパジャマでおじやましてきて、ビクビクするわ、塩谷くん勉強に付き合わされるわで寝たのがてっぺんを若干回った頃だった。

クラス分けは…。

A組：北山、木下、真木

B組：久保寺、塩谷

C組：大柳、鎌田、北浦、綱島

：

いた…。

J組：芹田

僕は…。天才じゃなかった…。

『作者が説明します。今回はクラス分けで天才かそうじゃないかを分けました。A組は最強クラスの天才。B組はそれには及ばないものの実力の高さは大いにあり、学校でも優秀と評される存在、C組は実力はあり天才でもあるが…。J組は凡才クラスといった形に設定しました。それでは続きをお楽しみください。え？なぜ、Jクラスまで作ったか…？（ネタバレ防止）です。』

そして、教室へと入った。

ガヤガヤ…。

結構賑やかだ。想像したよりも何倍も。

「あ。芹田くんだー。」

アレ？マネージャーちゃんだー。

「やつほー。」

「うん。おはよう。」

「芹田くんもこっちのクラスになっちゃったんだね…。一緒に頑張ろ？」

「うん。そうだね。」

いきなり教室の扉が開かれた。先生が来たかと思っただけど…。

あ。

「真木ちゃん!?!なんで!?!」

「牧野ちゃん…。なんで…。こっちな…。」

そういう真木ちゃんの目には涙が浮かんでいた。